

文久四年一月廿日より文久四年一月廿四日まで

P8311075 right

数十枚持参一杯を勧め、且小品を酬ふ、

廿一日亥 陰午下微雨

山下金助より箱館表、高木某へ届品托し来る、出 殿、周防守殿へ豫州惠勤の儀に付、縷述し敷。

廿二日子 陰

宅調、本日より金蔵改めて来る、尤母伴へり、鮎を携へ且次へ□糕等を贈れり、伊藤(幸)めり□一函を贈らせられ児へ羊糕贈らる一杯を設く、周助、保三をして、取越米払代金受取、且先日買入米払代払方を命じ札差へ遣し、千三百余の内七百兩は土屋へ預(あづけ)しめ三百兩は札差へ預け、其余は入費用意に取寄せ候

廿三日丑 晴風

浅野常之助初て来り面す(中等)、■州留守居太田来り面す、出 殿、箱館表為□金貳百

P8311075 left

円井上(元)へ頼み為替手形受取、豫州へ官金の手続き書を返す、須崎伯母来り菓一小管

常次郎より

糖花一小管、宿岡(彦)来り、鶏卵一管、播州より使して蠟一管魚数尾、木村屋より魚数尾残贈し来し旨

廿四日寅 晴

今日より長蔵来る、宅調、寺山来る出立賀銀を遣す、内山(孝)、□野(□)へ別を告に行く

菊

地(豫)より箱館平謙へ、届品老書托し来る、右序を以、酒代遣し候旨、馬具屋より三尺革を

□呈

すとして持来りし旨、永持 並両娘(り)う旧婢鉄、山本(長)牛姑富沢叔母、伊藤伯母、藤山

医道玄せき女

等を招き留別杯を勧む、黄窪両娘は年賀品数種、旧婢は小菊菓子折、富沢叔母も同品、伊藤伯母足袋(せきより肴一籠、鶏卵一折、月の雫)を残送せられ大助より村田(貞)へ孫一郎より同人へ岡本(庄)より、同人へ永持より平謙へ同人より小柴への届物

托せらる周助、長蔵、久左衛門、保三、細谷、小□へは繕を勤免表のもの共へは、一杯を遣す伯叔母牛姑両娘りう

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。21,

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。